

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 03-228595
 (43)Date of publication of application : 09.10.1991

(51)Int.Cl.	B26D 1/38 B26D 5/14
-------------	------------------------

(21)Application number : 02-205463	(71)Applicant : HITACHI METALS LTD YASUKI SEIMITSU:KK
------------------------------------	--

(22)Date of filing : 02.08.1990	(72)Inventor : KONDO KOJIRO
---------------------------------	-----------------------------

(30)Priority

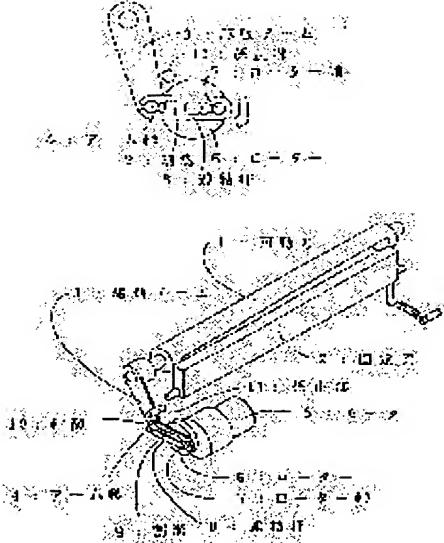
Priority number : 40129289 Priority date : 10.11.1989 Priority country : JP

(54) CUTTING DEVICE FOR SHEET MATERIAL

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a sheet material cutting device installed with an overload preventing structure which is small and has less power loss by elastically interposing a shaft in the groove provided on a driving connection lever.

CONSTITUTION: At the time when a load is abnormally increased at a cutter part for the reason of jamming, etc., a shaft groove 10 interposing the arm axis 4 at the tip of the driving arm 3 of a connection lever 8 is elastically opened and the arm axis 4 comes off into the slit groove 9 of the connection lever 8. The rotation of a motor side thereafter is not transmitted to a movable blade 1 because of the arm axis 4 being slided in the slit groove 9 of the connection lever 8. On reaching of the rotation position of a rotor 6 to the return stage, the arm axis 4 starts to rotate the driving arm 3 in the return direction, the driving arm 3 is stopped with the contact with the locking part 11 provided at the position where its movable blade 1 does not become in the state of its opening more than the original; stand by position and this driving mechanism is returned to the original stand by state, with the rotation of the rotor 6 pushing back the arm axis 4 to the position of the shaft groove 10.



⑯日本国特許庁 (JP) ⑩特許出願公開
⑫公開特許公報 (A) 平3-228595

⑤Int. Cl.⁵
B 26 D 1/38
5/14

識別記号 A
Z

府内整理番号 7604-3C
7604-3C

⑬公開 平成3年(1991)10月9日

審査請求 未請求 請求項の数 5 (全6頁)

④発明の名称 シート材料切断装置

②特 願 平2-205463

②出 願 平2(1990)8月2日

優先権主張 ⑩平1(1989)11月10日 ⑩日本(JP) ⑩特願 平1-292892

⑦発明者 近藤 孝次郎 島根県安来市恵乃島町114番地-1 株式会社安来精密内
⑦出願人 日立金属株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号

⑦出願人 株式会社安来精密 島根県安来市恵乃島町114番地-1

明 細 書

発明の名称

シート材料切断装置

特許請求の範囲

1 可動刃と固定刃との一对の刃物の可動刃を往復運動させて切断するシート材料切断装置において、駆動アームと、割溝を有する連結杆からなり、前記駆動アームと前記連結杆を介して前記可動刃を駆動させ、前記割溝の弾性力により前記可動刃の駆動を制御する駆動装置を装着してなることを特徴とするシート材料切断装置。

2 可動刃と固定刃との一对の刃物の可動刃を往復運動させて切断するシート材料切断装置において、割溝を有し一方端がローターに設けられたローター軸に回転支持され、前記割溝の一端に軸溝を有する連結杆と、一方端が前記可動刃の軸に固定され、他方端に前記連結杆に設けられた軸溝に嵌入するアーム軸を有する駆動アームからなり、前記割溝による弾性力により、前記アーム軸を前記連結杆に設けた前記軸溝に弾性的に嵌入して前

記可動刃の駆動を制御する駆動装置を装着してなることを特徴とするシート材料切断装置。

3 可動刃と固定刃との一对の刃物の可動刃を往復運動させて切断するシート材料切断装置において、割溝を有し一方端がローターに設けられたローター軸に回転支持され、前記割溝の一端に軸溝を有する連結杆と、一方端が前記可動刃の軸に固定され、他方端に前記連結杆に設けられた軸溝に嵌入するアーム軸を有する駆動アームからなり、前記割溝による弾性力により、前記アーム軸を前記連結杆に設けた前記軸溝に弾性的に嵌入し、前記駆動アームの駆動始点に係止部を設け、前記駆動アームの駆動を前記係止部により停止し、軸溝から外れたアーム軸を前記軸溝に復帰せしめる駆動装置を装着してなることを特徴とするシート材料切断装置。

4 可動刃と固定刃との一对の刃物の可動刃を往復運動させて切断するシート材料切断装置において、割溝を有し一方端がローターに設けられたローター軸に回転支持され、前記割溝の一端に軸溝

を有する連結杆と、一方端が前記可動刃の軸に固定され、他方端に前記連結杆に設けられた軸溝に嵌入するアーム軸を有する駆動アームからなり、前記割溝による弾性力により、前記アーム軸を前記連結杆に設けた前記軸溝に弾性的に嵌入し、前記駆動アームのアーム軸側端部に、前記アーム軸の回りに回転可能に案内片を設け、前記案内片に連結杆を摺動可能に嵌入せしめた駆動装置を装着してなることを特徴とするシート材料切断装置。

5 可動刃と固定刃との一対の刃物の可動刃を往復運動させて切断するシート材料切断装置において、一方端に長孔を有し、該長孔にローターに設けられたローター軸が摺動可能に嵌入され、他方端にアーム軸を有する駆動アームと、割溝を有し一方端が前記アーム軸に回転可能に支承され、前記割溝の一端に軸溝を有する連結杆からなり、前記可動刃にピンを設け、前記割溝の弾力性により前記ピンを前記軸溝に弾性的に嵌入して前記可動刃の駆動を制御する駆動装置を装着してなることを特徴とするシート材料切断装置。

あるとともに、カッターの内に挟みこまれた紙を取り出すために、カッターを手動操作によって、待機状態に戻さなくてはならない。

このような不具合を避けるためには、駆動側にトルクリミッターを組み込んだり、モーターの電流を制御して、必要以上のトルク伝達を制御する方法がある。しかし、回転運動を往復運動に変換する機構は、回転運動の一定トルクを往復運動の一定トルクに変換することは困難であり、通常上下の死点近傍では、非常に大きな倍力効果を持つために、カッター側でのトルクを一定以下に抑制しようとする目的のためには、十分ではない。

したがって、このような機構をより完全に作動させるためには、往復運動へ変換後の動力伝達を一定レベル以下に抑制することが望ましい。

このような機構を採用した従来技術としては、実願昭61-34745号(実開昭62-147491号公報)に記載されたものが知られている。ここでは、4リンク機構によってカムの回転運動の回動刃の往復運動への伝達を支持レバーとばねを併用して行い、

発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、ファクシミリや複写機などの装置において、記録用の紙やフィルムなどのシート材料(以下単に「紙」という)を切断するために用いられるカッターに過負荷防止ができる駆動装置を装着したシート材料切断装置に関するものである。

〔従来の技術〕

往復運動する可動刃と固定刃とからなる紙の切断装置は、専用のモーターあるいは機械のメインモーターより動力の供給を受けて、回転運動を往復運動に変換して可動刃に伝達する。しかし、カッター部分にジャム(紙詰まり)を生じたり、あるいは刃先部分に金属片などを噛み込んでしまった場合、駆動力が大きいときには、カッターの刃先や駆動系の部品に損傷を与える恐れがあり、駆動力が不足したときには、カッターは行程の途中で止まった状態となる。前者の場合は、刃先の欠けなどを生じて刃物を交換しなくては復旧できなくなり、後者の場合は、モーターの加熱の恐れが

所定以上の負荷に対しては、ばねが伸長することによって、過大動力の伝達を阻止しようとしている。

〔発明が解決しようとする課題〕

しかし、前述の実願昭61-34745号(実開昭62-147491号公報)に記載された機構は、ばねを用いているために次のような欠点がある。

周知のように、ばねは負荷に対して、一定比率の伸びを生じる性質がある。往復動作するカッターの可動刃には、切断行程中のどの位置で過大負荷を生じるのか予測することはできないのであるから、仮に切り始めの位置でジャム発生のため過大負荷を生じたとすれば、この構造のカッター機構は、所定の行程まではばねを伸長させながら、原動軸(モーター軸)を回転することになり、結局、カッターの切り始め部分で生じた過大負荷に対しては、この負荷に加えて、行程中にはばねが伸長した分の負荷を伝達することになるのである。

一方、カッターの切り終りの位置で生じた負荷に対しては、その後の行程でのばねの伸びは、少

ないのであるから、略々過大負荷発生時の動力を限度として、この機構が働くことになる。

すなわち、この機構では過大負荷の発生位置によって抑制じ得る負荷の大きさが変化することになり、所要動力や駆動系を最小化しようとするための駆路となってしまうのである。

この機構において、抑制すべき負荷の変動を小さくしようとすれば、ばね定数を小さくすることが有効であるが、所定の強力を得て、かつばね定数を小さくしようとすれば、ばねは大型のものとなり、機構の専有スペースやコストの面で不利なものとなってくる。

〔課題を解決するための手段〕

以上に述べた従来技術の欠点を排除するために本発明では、動力伝達のための連結杆に割溝を設け、動力伝達用の軸を軸溝に弾性的に嵌入して、所定以上の負荷が生じた場合には、この動力伝達用軸が軸溝を外れる構造としたものである。

すなわち本発明のうち、第1発明は、可動刃と固定刃との一対の刃物の可動刃を往復運動させて

有し一方端がローターに設けられたローター軸に回転支持され、前記割溝の一端に軸溝を有する連結杆と、一方端が前記可動刃の軸に固着され、他方端に前記連結杆に設けられた軸溝に嵌入するアーム軸を有する駆動アームからなり、前記割溝による弾性力により、前記アーム軸を前記連結杆に設けた前記軸溝に弾性的に嵌入し、前記駆動アームの駆動始点に係止部を設け、前記駆動アームの駆動を前記係止部により停止し、軸溝から外れたアーム軸を前記軸溝に復帰せしめる駆動装置を装着してなることを特徴とするシート材料切断装置であり、さらに第4の発明は、可動刃と固定刃との一対の刃物の可動刃を往復運動させて切断するシート材料切断装置において、割溝を有し一方端がローターに設けられたローター軸に回転支持され、前記割溝の一端に軸溝を有する連結杆と、一方端が前記可動刃の軸に固着され、他方端に前記連結杆に設けられた軸溝に嵌入するアーム軸を有する駆動アームからなり、前記割溝による弾性力により、前記アーム軸を前記連結杆に設けた前記

切断するシート材料切断装置において、駆動アームと、割溝を有する連結杆からなり前記駆動アームと前記連結杆を介して前記可動刃を駆動させ、前記割溝の弾性力により前記可動刃の駆動を制御する駆動装置を装着してなることを特徴とするシート材料切断装置である。

そして、本発明の第2発明は、可動刃と固定刃との一対の刃物の可動刃を往復運動させて切断するシート材料切断装置において、割溝を有し一方端がローターに設けられたローター軸に回転支持され、前記割溝の一端に軸溝を有する連結杆と、一方端が前記可動刃の軸に固着され、他方端に前記連結杆に設けられた軸溝に嵌入するアーム軸を有する駆動アームからなり、前記割溝による弾性力により、前記アーム軸を前記連結杆に設けた前記軸溝に弾性的に嵌入して前記可動刃の駆動を制御する駆動装置を装着してなることを特徴とするシート材料切断装置であり、第3の発明は可動刃と固定刃との一対の刃物の可動刃を往復運動させて切断するシート材料切断装置において、割溝を

軸溝に弾性的に嵌入し、前記駆動アームのアーム軸側端部に、前記アーム軸の回りに回転可能に案内片を設け、前記案内片に連結杆を摺動可能に嵌入せしめた駆動装置を装着してなることを特徴とするシート材料切断装置である。

さらに、第5の発明は、可動刃と固定刃との一対の刃物の可動刃を往復運動させて切断するシート材料切断装置において、一方端に長孔を有し、該長孔にローターに設けられたローター軸が摺動可能に嵌入され、他方端にアーム軸を有する駆動アームと、割溝を有し一方端が前記アーム軸に回転可能に支承され、前記割溝の一端に軸溝を有する連結杆からなり、前記可動刃にピンを設け、前記割溝の弾力性により前記ピンを前記軸溝に弾性的に嵌入して前記可動刃の駆動を制御する駆動装置を装着してなることを特徴とするシート材料切断装置である。

この構造のカッターの駆動装置では、カッターの可動刃の行程中のどの位置で過大負荷が生じても所定以上の負荷をカッター側に伝えないように

することができる。

【実施例】

第1図に、本発明の実施例を示す。往復回転動作する可動刃1に対して、その刃先を圧接した固定刃2とから構成されたカッターは、可動刃の軸に取付けられた駆動アーム3を備え、その先端のアーム軸4と、モーター5の軸に固定されたローター6に取付けられたローター軸7とは、一方が開放された割溝9を有する連結杆8によって連結されている。

カッターが正常に動作するときは、この機構は通常の4節リンク機構となって、モーター5の回転は、駆動アーム3に往復回転運動として伝えられ、モーターの一回転に対して、回転刃1は、切断-復帰の一動作を行なう。

次にカッター部分に、ジャムなどの理由で、負荷が異常に増大したときの本発明のカッターの駆動機構の一連の動作を第2図に示す。第2図(a)は待機状態を示す。過負荷を生じた場合は、第2図(b)に示すように、連結杆8の駆動アームの

ことができ、したがって、モーターの動力、駆動系の強度は、この負荷に合わせて適切に設計することが可能である。

第3図には、本発明の別の実施例を示す。可動刃の駆動アーム3と原動軸側のローター6とは、割溝9を有する連結杆8で連結され、駆動アーム3は連結杆8を介してローター6に引かれる方向に駆動される。この場合は、過負荷のときには、アーム軸4は、連結杆8の外側に外れるので、復帰行程時にアーム軸4が連結杆8の軸溝10の所定の位置に戻ることができるよう、連結杆8の先端部に案内部12を設けてある。

このようにした場合は、駆動アームを引く方向に駆動することができるので、第1図に示した実施例と併せて、駆動系の設計は、原動軸側からみて、押す場合と引く場合とを自由に選択して実施することができる。

第4図には、本発明のさらに別の実施例を示す。駆動アーム3のアーム軸4には、C形の断面を有する案内片13が取付けられており、過負荷の場合は、

先端のアーム軸4を挟んだ軸溝10は、弾性的に開いて、アーム軸4は連結杆8の割溝9の中に外れる。この後のモーター側の回転運動は、第2図(c)に示すように、アーム軸4が連結杆8の割溝9の中をすべるために、可動刃へは伝達されない。ローター6の回転位置が復帰行程に至れば、第2図(d)に示すように、アーム軸4は、駆動アーム3を復帰方向に回転させはじめ、駆動アーム3は、可動刃1が本来の待機位置よりも開く状態とならない位置に設けられた係止部11に接して止まり、ローター6の回転がアーム軸4を軸溝10の位置に押し戻すことによって、この駆動機構は、元の待機状態に戻る。

したがって、過負荷を生じた場合も、本発明のシート材料切断装置は、カッターが元の待機状態となって停止するので、過負荷の原因となったジャムを生じて多数枚重ねとなった紙や金属片を取り除く作業を容易に行なうことが可能である。

また過負荷状態がカッターのどの位置で生じても、切り離す臨界負荷の大きさは、ほぼ一定にす

合に外れた連結杆8とアーム軸4が再び元の状態に復帰するときの連結杆8の案内となる。このような機構にした場合は、第3図に示した実施例において、連結杆8の案内部12が突出した状態で往復することができなくなるので、本発明のシート材料切断装置を一層小型なものとすることが可能である。

第5図は、本発明の別の実施例を示す図である。本実施例は直線な刃先を有する固定刃2とV字型の刃先を設けて上下に往復動作する可動刃1とかなるギロチン式のカッタである。本実施例ではモーター(図示せず)によって、回転するローター6の回転運動は、駆動アーム3と割り溝を有する連結杆8を介してピン16に伝達され、前記可動刃1の往復運動に変換される。

固定刃2と可動刃1との隙間15に多数枚の紙が入り込むなどによって、過負荷を生じた場合は、連結杆8の作用によって、自動的にモーター側の過負荷を回避した後、可動刃1を元の待機位置に戻すので、駆動アーム3を可動刃1に直接連結す

る場合に比較して、モーターの焼損を生じることもなく、またジャム発生時の障害の解除作業も容易に行うことができる。

本実施例の第5図においては連結杆8に設けた軸溝10は可動刃1のピン16に嵌入したものを用いて説明したが、連結杆8を逆向きにして軸溝10をアーム軸4に嵌入しても同じ動作をすることができるので、連結杆8のセットの向きは用途に応じて使い分ければよい。このことは第1図に示す実施例にも同じことが言える。

〔発明の効果〕

本発明は、駆動の連結杆に設けた溝中に軸を弾性的に挟んだという簡単な構造で、小型で動力損失の少ない過負荷防止構造を装着したシート材料切断装置を提供するものである。

図面の簡単な説明

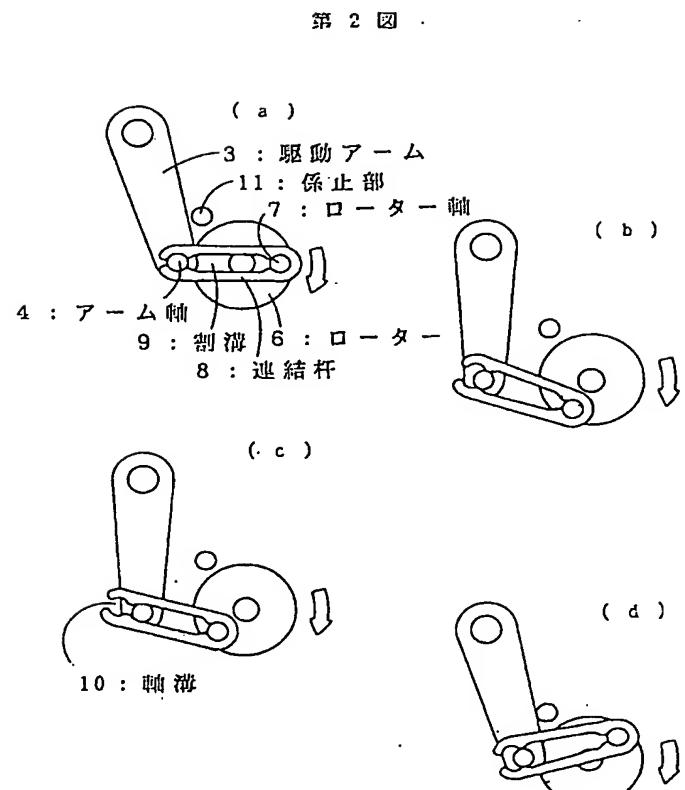
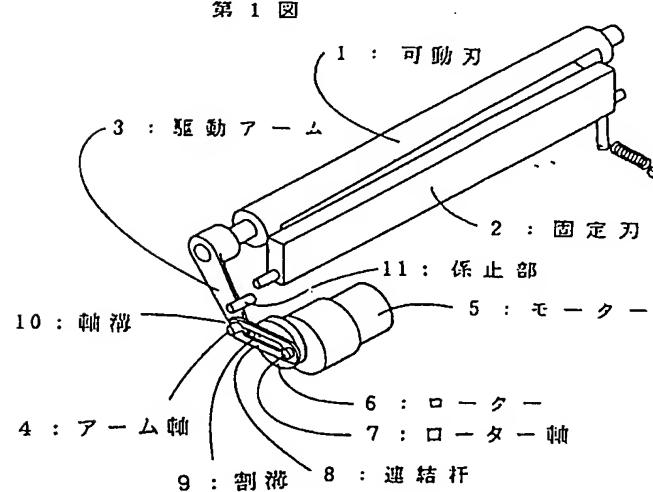
第1図は本発明に係るシート材料切断装置の実施例を示す斜視図、第2図は第1図の実施例の動作を各行程毎に示す駆動連結部分の正面図、第3図は本発明の別の実施例を示す図、第4図と第5

図はさらに別の実施例を示す図である。

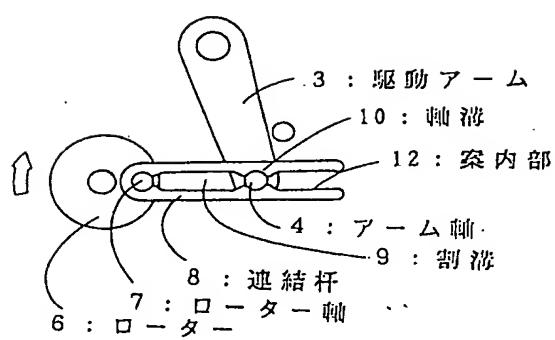
1：可動刃、2：固定刃、3：駆動アーム、4：アーム軸、5：モーター、6：ローター、7：ローター軸、8：連結杆、9：割溝、10：軸溝、11：係止部、12：案内部、13：案内片、14：長孔、15：隙間、16：ピン

出願人 日立金属株式会社

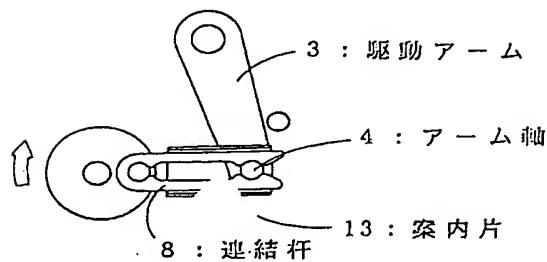
株式会社安来精密



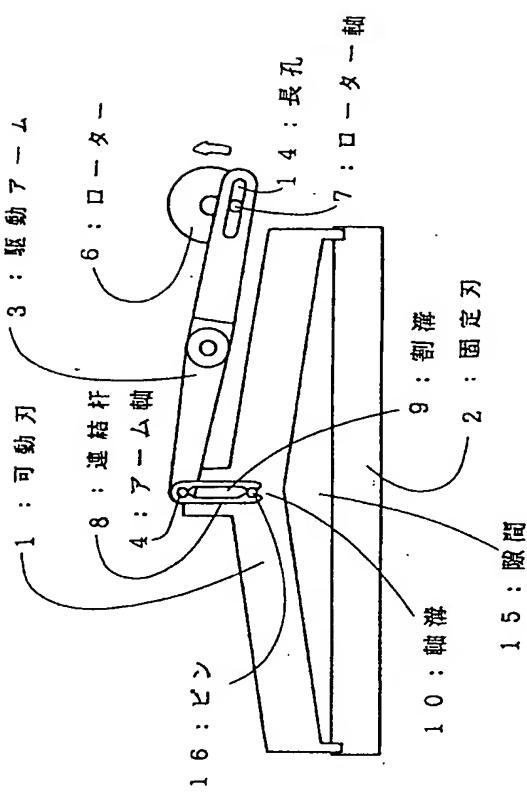
第3図



第4図



第5図



【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第3区分

【発行日】平成11年(1999)4月20日

【公開番号】特開平3-228595

【公開日】平成3年(1991)10月9日

【年通号数】公開特許公報3-2286

【出願番号】特願平2-205463

【国際特許分類第6版】

B26D 1/38

5/14

【F I】

B26D 1/38 A

5/14 Z

子 稿 本 書 正 書 (自 無)

平成9年7月22日

特許庁長官 聲



1 事件の表示

平成2年特許願 第205463号

2 発明の名称 シート材料切断装置

3 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 東京都千代田区丸の内二丁目1番2号

名称 (508) 日立金属株式会社

電話 東京 3284-4642

代表者 松 雄也

住所 岐阜県安来市安来町2107番地2

名称 株式会社 安来製作所

代表者 竹内 丹

4 補正により増加する請求項の数 1

5 補正の対象
明細書の全文。6 補正の内容
別紙のとおり。

主大訂正明細書

発明の名前

シート材料切断装置

特許請求の範囲

1 可動刃と固定刃との一对の刃物を有し、前記可動刃を往復運動させて切削するシート材料切断装置において、底面アームと、弹性变形部を備えた連結部とを有し、前記底面アームと前記連結部を介して前記可動刃を駆動させ、前記弹性部の弾性力により前記可動刃の底面を制御する駆動制御部を具備することを特徴とするシート材料切断装置。

2 弾性支承部を備えた連結部が底面を有する連結杆であることを特徴とする請求項1に記載のシート材料切断装置。

3 可動刃と固定刃との一对の刃物の可動刃を有し、前記可動刃を往復運動させて切削するシート材料切断装置において、底面を有し一方端がローターに設けられたローター端に凹面支持され、前記凹面の一端に軸孔を有する連結杆と、一方端が前記可動刃の軸に留められ、他方端に前記連結杆につけられた軸孔に嵌入するアーム端を有する底面アームからなり、前記凹面による弾性力により、前記アーム端と前記連結杆に設けた前記軸孔に弾性力で嵌入して前記可動刃の底面を制御する駆動制御部を具備することを特徴とするシート材料切断装置。

4 可動刃と固定刃との一对の刃物の可動刃を有し、前記可動刃を往復運動させて切削するシート材料切断装置において、底面を有し一方端がローターに設けられたローター端に凹面支持され、前記凹面の一端に軸孔を有する連結杆と、一方端が前記可動刃の軸に留められ、他方端に前記連結杆につけられた軸孔に嵌入するアーム端を有する底面アームからなり、前記凹面による弾性力により、前記アーム端と前記連結杆に設けた前記軸孔に弾性力で嵌入し、前記底面アームの底面端に停止部を有し、前記底面アームの底面を前記停止部により止めし、軸孔から外れたアーム端を前記連結杆に復元せしめる駆動制御部を具備することを特徴とするシート材料切断装置。

5 可動刃と固定刃との一对の刃物の可動刃を有し、前記可動刃を往復運動させて切削するシート材料切断装置において、底面を有し一方端がローターに設けられ

れたローター間に回転支承され、前記部品の一端に軸部を有する駆動軸と、一方端が前記可動刃の間に嵌められ、他方端に前記遮断軸に嵌められた軸部に嵌入するアーム軸を有する駆動アームからなり、前記部品による弾性力により、前記アーム軸を前記遮断軸に設けた前記部品に弹性的に嵌入し、前記駆動アームのアーム駆動部に、前記アーム軸の回りに内側可動部に内側片を設け、前記内側片に遮断軸を内側可動部に嵌入しめた駆動部を具備することを特徴とするシート材料切断装置。

9. 前記刀と刃刃との一対の刃物の可動刃を有し、前記可動刃を往復運動させて切断するシート材料切断装置において、一方端に孔を有し、該孔にローターに嵌められたローター軸が得て軸に嵌入され、他方端にアーム軸を有する駆動アームと、前記刃刃一方端が前記アーム軸に回転支承に支承され、前記部品の一端に軸部を有する遮断軸からなり、前記可動刃にピンを設け、前記部品の彈性力により前記ピンを前記遮断軸に弹性的に嵌入して前記可動刃の駆動部を制御する駆動部を具備することを特徴とするシート材料切断装置。

発明の詳細な説明

【発明上の利用分野】

本発明は、ファクシミリや複写機などの映像において、記録用の紙やフィルムなどのシート材料(以下單に「紙」という)を切断するために用いられるカッターに過負荷防止ができる駆動部を装備したシート材料切断装置に関するものである。

【従来の技術】

往復運動する可動刃と固定刃とからなる紙の切断装置は、専用のモーターあるいは電動のメインモーターより動力の供給を受けて、往復運動を往復運動に変換して可動刃に伝達する。しかし、カッター部分にジャム(紙詰まり)を生じたり、あるいは刃先部分に金属片などを詰め込んでしまった場合、動力が大きい場合には、カッターの刃先や駆動系の部品に負担を与える恐れがあり、動力が不足した場合には、カッター往復行程の途中で止まった状態となる。前者の場合は、刃先の欠けなどを生じて刃先を交換しなくては復旧できなくなり、後者の場合は、モーターの加熱が過熱があるとともに、カッターの内に詰まされた紙を取り出

すために、カッターを手動操作によって、停機状態に貢献なくてはならない。

このような不具合を避けるためには、直動軸にトルクリミッターを組み込んだり、モーターの電流を監視して、必要以上のトルク伝達を抑制する方法がある。しかし、回転速度をせき止めに変換する機構は、回転速度の一定トルクを往復運動の一定トルクに変換することは困難であり、通常上下の死点位置では、非常に大きな負荷が発生を防つために、カッター側でのトルクを一定以下に抑制しようとすると目的のためには、十分ではない。

したがって、このような構造をより完全に動作させるためには、往復運動へ変換後の動力伝達を一定レベル以下に抑制することが望ましい。

このような構造を採用した従来技術としては、特開昭51-34745号(実開昭62-147491号公報)に記載されたものが知られている。ここでは、4面リンク機構によってカムの往復運動の回数の往復運動への伝達を支持レバーとばねを併用して行い、所定以上の負荷に對しては、ばねが伸びることによって、过大動力の伝達を阻止しようとしている。

【発明が解決しようとする課題】

しかし、前述の特開昭51-34745号(実開昭62-147491号公報)に記載された構造は、ばねを用いているために次のようないくつか欠点がある。

周知のように、ばねは負荷に對して、一定比率の伸びを生じる性質がある。往復運動するカッターの荷重には、切削行程中のどの位置で過大負荷を生じるのか予測することはできないのであるから、板に切り始めの位置でジャム発生のため過大負荷を生じたとすれば、この構造のカッター機構は、所定の行程まではばねを伸長させながら、駆動軸(モーター軸)を回転することになり、結果、カッターの切り始め部分で生じた過大負荷に對しては、この負荷に加えて、行程中にばねが伸長した分の負荷を伝達することになるのである。

一方、カッターの切り終わりの位置で生じた負荷に對しては、その後の行程でのばねの伸びは、少ないものであるから、また過大な荷負を掛ける動力を伝達として、この構造が働くことになる。

すなまち、この構造では過大負荷の発生位置によって抑制し得る負荷の大きさが変化することになり、所定動力や駆動系を最小化しようとするための困難とな

ってしまうのである。

この構造において、抑制すべき負荷の変動を小さくしようとすれば、ばね定数を小さくすることが有効であるが、所定の動力を得て、かつばね定数を小さくしようとすれば、ばねは过大のものとなり、機械の導入スペースやコストの面で不利なものとなってくる。

【課題を解決するための手段】

以上述べた従来技術の欠点を補助するために本発明では、可動刃の駆動を過負荷時に解消できるような駆動部を設けることを検討した。そして、可動刃への駆動力を伝達する部材に、有効遮断部を設けた遮断部を設け、過負荷時に遮断部遮断部の弾性力により遮断部を駆動部とすることにより、小型で動力損失の少ない過負荷遮断装置となることを具現し本発明に達成した。

すなまち、本発明の第1発明は可動刃と固定刃との一対の刃物を有し、前記可動刃を往復運動させて切削するシート材料切断装置において、駆動アームと、遮断部遮断部を備えた遮断部とを有し、前記駆動アームと前記遮断部を介して前記可動刃を遮断させ、前記遮断部の弾性力により前記可動刃の駆動部を制御する駆動部を具備することを特徴とするシート材料切断装置である。

具体的には、動力伝達のための遮断軸に遮断部を設け、動力伝達用の軸を軸部に弹性的に嵌入して、所定以上の負荷が生じた場合には、この動力伝達用軸が軸部を外れる構造とができる。

すなまち、特に遮断部を備えた遮断部が遮断部を有する遮断軸であることを特徴とするものである。

そして、本発明の第2発明は、可動刃と固定刃との一対の刃物の可動刃を有し、前記可動刃を往復運動させて切削するシート材料切断装置において、遮断部を有し一方端がローターに設けられたローター軸に回転支承され、前記遮断部の一端に遮断部を有する遮断軸と、一方端が前記可動刃の間に嵌められ、他方端に前記遮断軸に設けられた遮断部に嵌入するアーム軸を有する駆動アームからなり、前記遮断部による弾性力により、前記アーム軸を前記遮断軸に嵌められた前記遮断部に弹性的に嵌入して前記可動刃の駆動部を制御する駆動部を具備することを特徴とするシート材料切断装置である。

第3の発明は、可動刃と固定刃との一対の刃物の可動刃を有し、前記可動刃を往復運動させて切削するシート材料切断装置において、遮断部を有し一方端がローターに設けられたローター軸に回転支承され、前記遮断部の一端に遮断部を有する遮断軸と、一方端が前記可動刃の間に嵌められ、他方端に前記遮断軸に設けられた遮断部に嵌入するアーム軸を有する駆動アームからなり、前記遮断部による弾性力により、前記アーム軸を前記遮断軸に嵌められた前記遮断部に弹性的に嵌入して、前記遮断部から外れたアーム軸を前記遮断部に嵌めしめた駆動部を具備することを特徴とするシート材料切断装置である。

さらに第4の発明は、可動刃と固定刃との一対の刃物の可動刃を有し、前記可動刃を往復運動させて切削するシート材料切断装置において、遮断部を有し一方端がローターに設けられたローター軸に回転支承され、前記遮断部の一端に遮断部を有する遮断軸と、一方端が前記可動刃の間に嵌められ、他方端に前記遮断軸に設けられた遮断部に嵌入するアーム軸を有する駆動アームからなり、前記遮断部による弾性力により、前記アーム軸を前記遮断軸に設けられた遮断部に弹性的に嵌入して、前記遮断部から外れたアーム軸を前記遮断部に嵌めしめた駆動部を具備することを特徴とするシート材料切断装置である。

さらに第5の発明は、可動刃と固定刃との一対の刃物の可動刃を有し、前記可動刃を往復運動させて切削するシート材料切断装置において、一方端に孔を有し、該孔にローターに設けられたローター軸が得て軸に嵌入され、他方端にアーム軸を有する遮断アームと、遮断部を有し一方端が前記アーム軸に嵌められる遮断部が前記遮断部に嵌められ、前記遮断部に嵌められた遮断部を有する遮断アームからなり、前記可動刃にピンを設け、前記遮断部の弾性力により前記ピンを前記遮断部に弹性的に嵌入して前記可動刃の駆動部を制御する遮断部を具備することを特徴とするシート材料切断装置である。

この構造のカッターの遮断部では、カッターの可動刃の行程中のどの位置で過大負荷が生じても所定以上の負荷をカッター間に伝えないようにすることができる。

【実施例】

第1図に、本発明の実施例を示す。往復回転動作する可動刃1に対して、その刃先を圧縮する固定刃2とから構成されたカッターは、可動刃の前に取付けられた駆動アーム3を備え、その先端のアーム端4と、モーター5の前に固定されたローター6に取付けられたローター端7とは、一方が側面された斜溝8を有する連結杆9によって連結されている。

カッターが正常に動作するときは、この機構は通常の4節リンク機構となって、モーター5の回転は、駆動アーム3に往復回転運動として伝えられ、モーターの一向転に対しても、可動刃1は、切断一復帰の一動作を行なう。

次にカッター部分に、ジャムなどの理由で、負荷が異常に増大したときの本発明のカッターの駆動部の一連の動作を第2図に示す。第2図(a)は荷重状態を示す。過負荷を生じた場合は、第2図(b)に示すように、連結杆9の駆動アームの先端のアーム端4を納めんと拘束し0は、拘束的に向いて、アーム端4は連結杆9の軸孔3の中に外れる。この後のモーター1側の回転運動は、第2図(c)に示すように、アーム端4が連結杆9の斜溝8の中をすべるために、可動刃へは伝達されない。ローター6の回転位置が駆動行程に至れば、第2図(d)に示すように、アーム端4は、駆動アーム3を駆動方向に回転させはじめ、駆動アーム3は、可動刃1が本来の荷重位置よりも聞く状態とならない位置に受けられた係止部11に接して止まり、ローター6の回転がアーム端4を斜溝8の位置に押しこすことによって、この駆動部は、元の拘束状態に戻る。

したがって、過負荷を生じた場合も、本発明のシート材料切断装置は、カッターが元の荷重位置となって停止するので、過負荷の原因となったジャムを生じて多段収納となつた紙や金属片を取り除く作業を容易に行なうことが可能である。

また過負荷状態がカッターのどの位置で生じても、切り離す境界負荷の大きさは、ほぼ一定にすることである。したがって、モーターの能力、駆動系の強度は、この負荷に合わせて適切に設計することができる。

第3図には、本発明の別の実施例を示す。可動刃の駆動アーム3と駆動部のローター6とは、斜溝8を有する連結杆9で連結され、駆動アーム3は連結杆9を介してローター6に引かれる方向に駆動される。この場合は、過負荷のときに

は、アーム端4は、連結杆9の外側に外れるので、連結杆9間にアーム端4が連結杆9の斜溝8の位置に嵌ることができるよう、連結杆9の先端部に車内部12を設けてある。

このようにした場合は、駆動アームを引く方向に駆動することができるので、第1図に示した実施例と併せて、過負荷の設計は、駆動部からみて、押す場合と引く場合とを自由に選択して実施することができる。

第4図には、本発明のさらに別の実施例を示す。駆動アーム3のアーム端4には、C字型の断面を有する車内部13が取付けられており、過負荷の場合に外れた連結杆9とアーム端4が凹み元の状態に復帰するときの連結杆9の車内部13が突出した状態で往復することができるので、本発明のシート材料切断装置を一層小型化することができる。

第5図には、本発明の別の実施例を示す。本実施例は、実質上刃先を有する固定刃2とV字型の刃先を設けて上下に往復動作する可動刃1とからなるギロチン式のカッターである。本実施例ではモーター(図示せず)によって、回転するローター6の回転運動は、駆動アーム3と駆動部9を介してビン16に伝達され、可動刃1の往復運動に変換される。

固定刃2と可動刃1との間に15に多段収の紙が入り足などによって、過負荷を生じた場合は、連結杆9の作用によって、自動的にモーター1側の過負荷を回避した後、可動刃1を元の荷重位置に戻すので、駆動アーム3を可動刃1に直接連結する場合に比較して、モーターの荷重を生じることもなく、またジャム発生時の作業の解消作業も容易に行なうことができる。

本実施例の第5図においては連結杆9に受けた斜溝10は可動刃1のビン16に嵌入したものと用いて実現したが、連結杆9を逆向きにして斜溝10をアーム端4に嵌入しても同じ動作をすることができる。連結杆9のセットの向きは用途に応じて使い分ければよい。このことは第1図に示す実施例にも同じことができる。

【発明の効果】

本発明は、弾性支承部によって駆動を制御することで、小型で効率損失の少な

い過負荷防止装置を新規したシート材料切断装置を提供するものである。

前面の簡単な説明

第1図は本発明に係るシート材料切断装置の実施例を示す斜視図、第2図は第1図の実施例の動作を各行程等に示す駆動部部分の正面図、第3図は本発明の別の実施例を示す図、第4図と第5図はさらに別の実施例を示す図である。

1 可動刃、2 固定刃、3 駆動アーム、4 アーム端、5 モーター、
6 ローター、7 ローター端、8 連結杆、9 斜溝、10 組合せ、11 係止部、
12 車内部、13 車内部片、14 留止、15 組合せ、
16 ビン